

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 8 月 30 日現在

機関番号：33804

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20748

研究課題名(和文)NICU在宅移行時の家族エンパワーメントプログラムの開発

研究課題名(英文)Development of Family Empowerment Program at NICU Home Transition

研究代表者

室加 千佳(MUROKA, CHIKA)

聖隷クリストファー大学・看護学部・助教

研究者番号：40616918

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、NICU(Neonatal Intensive Care Unit：以下NICUとする)入院中から在宅移行時の、家族エンパワーメントプログラムを開発することを目的とした。具体的には以下の3つのステップで目的を達成した。(1)NICU移行時(入院中・退院後)に家族へ提供される在宅移行のための看護ケアの現状把握、(2)NICU在宅移行時の家族の不安や困難、生活の変化の把握、(3)NICU在宅移行時の家族エンパワーメントプログラムの作成。以上3点を実施し、評価・修正後、プログラム開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

NICU在宅移行時に家族が安心・安全に在宅生活を送るには、家族自ら、家族の健康を考え、調整、改善することが重要となる。そのために、看護師が家族と協働し、家族の力を信じながら看護提供をするプログラムを開発した。このプログラムを作成したことで、NICU入院中から家族の力を発揮しスムーズに在宅看護へ移行できるように在宅看護体制を整えるきっかけとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop a family empowerment program at the transition from NICU care to home care after discharge. Specifically, the purpose is achieved in the following three steps.

For this purpose, we obtained information about (1) the real situation of nursing care for home transition provided to the family during hospitalization and discharge from NICU, (2) the real situation of family's anxiety and difficulties at the transition to home and the living conditions, and (3) to create a family empowerment program at the transition to home. The above three points were implemented, and after evaluation and correction, the program was developed.

研究分野：医師薬学

キーワード：看護学 家族看護学 NICU 在宅

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

周産期医療の進歩に伴い、高度な医療を必要とし重篤な疾患を有する新生児が救命されるようになり、ケアがハイリスク化している現状にある。NICU 入院となる低出生体重児は全出生の 9.6%と約 10 人に 1 人の割合で出生し、増加の一途を辿っている。NICU 必要数は約 3 床/1000 出生と言われており、約 10 年前と比較すると約 50%も増加している。その中で、社会問題視されているのは、NICU 患児の長期入院化による NICU 病床数の不足である。NICU の病室環境は医療機器に伴う騒音やプライバシーの配慮が乏しく、児が家族と共に過ごすにはふさわしい場所と言いつても難しいため、児の QOL(Quality Of Life: 以下 QOL とする)の視点からも NICU での長期入院は問題である。長期入院となる背景の要因の 1 つには、在宅医療に対する負担の大きさや不安が大きく、家族が在宅移行へ踏み込めない現実にあった。研究者が 2012～2014 年度に研究代表として実施した「NICU 退院児の在宅移行看護モデルの考案」(課題番号: 24792523)の研究内で、長期入院児疾患上位の呼吸管理や経管栄養を必要とする児の母親は、退院直前～初回小児科受診までの退院前後に不安が増強し、その中で 24 時間母親が主たる介護者として子育てをしており「家族調整の困難さ」が浮き彫りになった。この問題を解消する社会資源として、訪問看護やレスパイトケア(一時預り)の活用があるが、小児に特化した訪問看護師の不足や費用の面で、頻回に活用できない現実があった。

近年の NICU は、ファミリーセンタードケア(Family Centerd Care)という概念が導入され(Hutchfield, 1999) 看護師が家族の意思を尊重しつつ家族と協働し、家族のケア参加が促進されるケアを推進している。その際、家族自身が自分たちの生活を調整し、家族自らが力を発揮する『家族エンパワーメント』が重要になる。エンパワーメント(Empowerment)とは、自らのニーズに適合した人々の能力とその能力が促進され、強められ、認識される社会のプロセス(Gibson, 1991)である。日本の看護においては、看護ケアがケア対象者の権利や自己決定を尊重し、その人が持てる力を発揮できるように、医療者中心のケアからケアを受けるものとケアを提供する者がパートナーシップを形成し、協働して問題解決に取り組んでいくよう(野嶋, 1996)にパラダイムシフトする概念として導入された。家族看護学において家族エンパワーメントとは、家族をひとつのケアの対象として捉え、家族自らが持てる力を発揮して、健康問題に積極的に取り組み健康的な家族生活が実現し、予防的・指示的・治療的な援助を行い、家族を尊重し、家族の権利を擁護し、家族のために看護を展開することを第一の目的としている(野嶋, 2009)。家族へ提供される看護を査定する際、ケア内容だけでなく、エンパワーメントといった精神的における変化が重要(Dunst, 2007)と主張している。

在宅社会資源の活用が困難な今こそ、入院中から家族の力を発揮しスムーズに在宅看護へ移行することが、近年の NICU の問題を解決する糸口となると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、NICU 入院中から在宅移行時の、家族エンパワーメントプログラムを開発することを目的とする。

具体的には以下の 3 つのステップで目的を達成する。NICU 在宅移行時に家族へ提供される看護ケアの現状把握、NICU 在宅移行時の家族の不安や困難、生活状況の把握、NICU 在宅移行時の家族エンパワーメントプログラムの作成。

以上 3 点を実施し、評価・修正後、プログラム開発を行った。

3. 研究の方法

(1)研究デザイン

質的研究

(2)調査場所

A 県西部の B 市にある総合周産期母子医療センター内の NICU 病棟

(3)調査期間

2015 年 7 月～2017 年 7 月

(4)調査対象

NICU 看護師

NICU 入院児の母親

(5)データ収集方法

1 回 30 分程度の半構成的面接法を実施

(6)分析方法

得られたデータを質的帰納的に分析

(7)本研究の流れ

以下の研究手順・方法に従い調査を実施した。

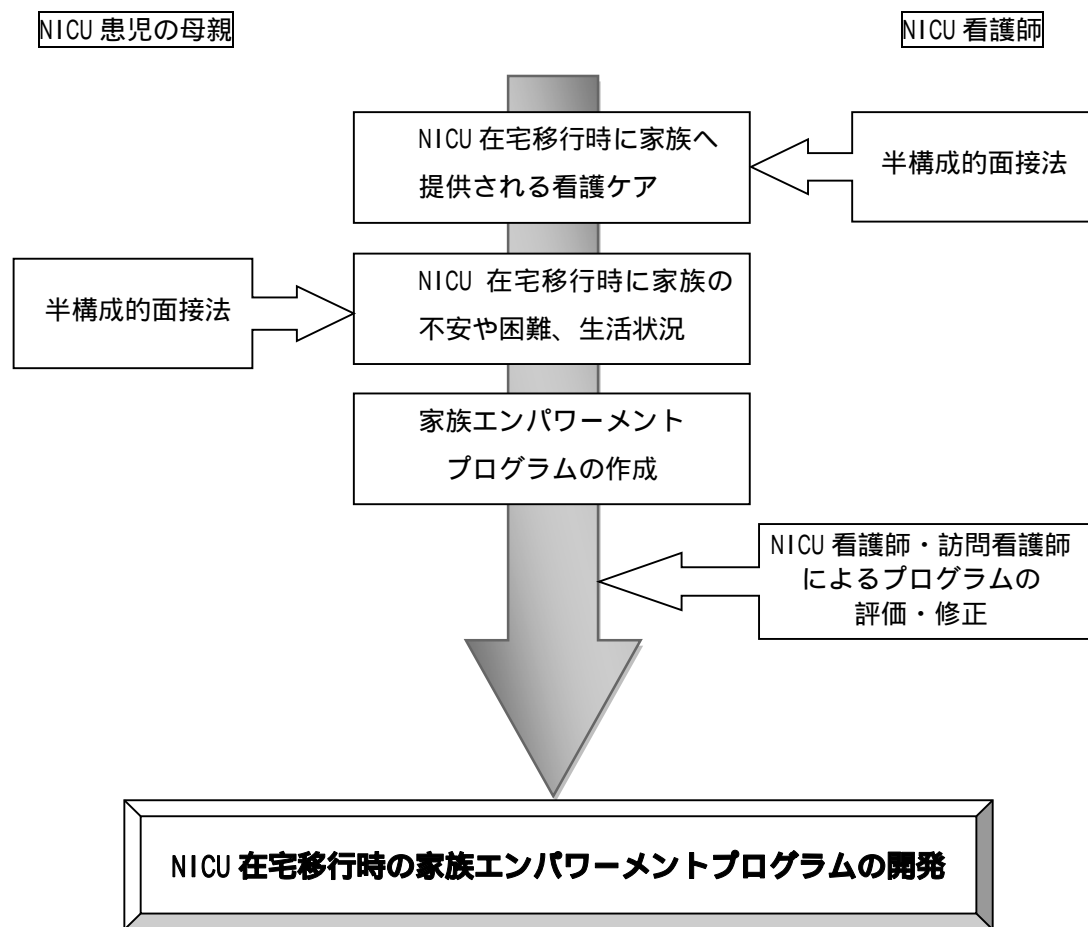


図 1 本研究手順・方法

(8)用語の操作的定義

本研究で、NICU とは NICU 病棟と GCU 病棟のことを示す。

本研究で、NICU 在宅移行時とは、NICU 入院中から退院 2 週間後までを示す。

(9)倫理的配慮

研究参加協力については、自由意思を尊重し、書面と口頭にて研究目的・方法等を説明した。また、データの匿名化や提供される看護の保証を行った。児や母親の状態を考慮し、データ収集を実施した。本研究は、研究者所属施設の倫理委員会および、研究対象施設の倫理委員会の審査を受け、承認が得られたのち、研究を開始した。

4 . 研究成果

NICU 在宅移行時に家族へ提供される看護ケアの現状把握を NICU 看護師対象に、NICU 在宅移行時の家族の不安や困難、生活状況の把握を NICU 患児の母親対象に、インタビュー調査を実施した。なお、患児は気管切開、経管栄養等、医療的ケアを有していた。

(1) NICU から在宅移行時に家族へ提供される看護ケアの現状把握

在宅移行前の家族へ提供される看護ケアのカテゴリーとしては、【在宅生活環境を家族と構築する】【多職種をつなぐ】【在宅スタッフと看護ケアを共有する】が抽出された。

在宅移行後の家族へ提供される看護ケアのカテゴリーとしては、【在宅生活の再構築を支援する】【児との愛着形成の促進する】【児の成長発達を支援する】【不安や訴えを傾聴する】【親役割取得過程を支援する】【在宅スタッフと看護ケアを共有する】が挙げられた。

(2) NICU から在宅移行時の家族の不安や困難、生活状況の変化の把握

NICU 入院児の家族は、退院 2 週間後までに、【急変時の不安】【児の状況の変化による不安】【児の生活リズムがつかめない】【時間管理の難しさ】【病院と在宅のケアの違い】を困難として抱えていた。家族生活状況の変化としては、【極度な緊張状態】【環境の変化による戸惑い】【24 時間母親が主たる養育を実施する】が抽出された。一方で、インタビュー時に、在宅生活が困難と感じていなかった対象者は、訪問看護や子育て支援員等の【制度の頻回活用】【NICU 入院児の家族とのつながり】や、母親だけでなく父親や祖父母の【家族支援】があり、【退院前の在宅イメージ構築】ができていた。

(3) 家族エンパワーメントプログラムの作成

上記の結果より、NICU 看護師と、NICU 退院後に在宅支援を行う訪問看護師にアドバイスをもらい、NICU 在宅移行時の家族エンパワーメントプログラムの構成要素を以下に決定した。

家族エンパワーメントプログラムの構成要素として、家族の目標は以下の 5 点が示された。

NICU 在宅移行時の家族が、

在宅生活環境や児と家族の生活リズムを工夫できる

医療技術を習得し養育できる

家族役割を調整できる

ピアサポーターと関係が構築できる

社会資源の情報収集ができ自分に合った選択ができる

家族エンパワーメントプログラムの構成要素として、看護支援内容は以下の 6 点が示された。

NICU 在宅移行時の看護支援内容として、

在宅生活のイメージ化を図れるように支援する

家族の自律を促すよう支援する

傾聴・承認・称賛を用い支援する

家族をよく捉え、家族の力を信じながら支援する

多職種と連携し支援する

途切れない関わりを大切に支援する

家族の意思決定を支援する

以上の結果より、上記の構成要素を含んだ、NICU 在宅移行時の家族エンパワーメントプログラムを作成した。

5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計5件)

Chika Muroka, Medically-dependent infants at home: NICU nurses ' contribution,
Council of International Neonatal Nurses Conference, 2019

室加千佳、NICU 看護師による在宅訪問看護支援 - 在宅移行前と在宅移行後に焦点をあてて
-、日本助産学会、2018

室加千佳、NICU から在宅移行の医療処置を有する児の家族に対する退院支援看護師の認識
と役割、日本新生児看護学会、2016

室加千佳、NICU訪問看護師による在宅移行看護ケア - NICU退院児の初回小児科外来受診時
において -、せいいい看護学会、2015

室加千佳、NICU訪問看護師による在宅移行看護ケア - NICU入院中において -、日本母性
看護学会、2015

〔その他〕(計1件)

講演会発表

室加千佳、我が国のNICUから在宅移行の現状、静岡県中・西部地区 新生児交流会、2017
年8月

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。